

令和6年度 第3回諫早市社会教育委員会議 議事録

日 時：令和7年1月17日（金）15：30～17：00

場 所：諫早市役所別館1階 第2会議室

出席者：【社会教育委員】

平山 仁 委員、西山敏明委員、石丸民世委員、松山 綾委員、橋本克彦委員、
西川 亨 委員

【事務局】

石部邦昭（教育長）、竹島健吾（生涯学習課長）、藤山隆一郎（同課長補佐）
山下美喜夫（同参事補・指導主事）、松山 優希（同一般職）

議 題：（1）地域学校協働活動推進事業について

①委員所属団体等の活動について（振り返り）

②意見交換

③質疑応答

（2）各種研究大会参加報告について

①令和6年度第54回九州ブロック社会教育研究大会鹿児島大会について

②令和6年度長崎県社会教育研究大会について

（3）その他

— 開会 —

— 教育長挨拶 —

（生涯学習課長補佐）

それでは、ここからの進行を議長にお願いいたします。

（議長）

皆様こんにちは。会議に入る前に議事録署名人を選出させていただきます。議事録署名人を先に決めておきたいと思います。議事録署名については、皆さんに担当していただくということで、年度初めにご了解をいただいておりますところですので。本日は委員にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

— 委員了承 —

ありがとうございます。

了解をいただいたということで、中身に入りたいと思います。

皆さんも今日は色々な報道を聞かれて、阪神淡路大震災からちょうど30年だったなということへの思いもあられることと思います。

私もちょうどあのとき、学校に勤めていて、報道がたくさん流れていたってということよりも、そのときの新聞をたくさん買ってまして、これはその後自分が教材になるなとそういう思いで4、5紙たくさん新聞を買って保管をしていたのを覚えています。

10年経ったぐらいのときに全てそれを処分してしまったんですけど、今思えば全部取っとけばよかったななんて思っているんですが、2度とないなというようなこととか、いそこがちょうど神戸におりまして、筆筭と筆筭の間に挟まって間に入って助かった話とかですね。諫早市から神戸に行った派遣された隊員の中に、ちょうど久山の自治会長さんがいらっしゃっていろいろとお話を聞いたりだとか、そのようなことを思い出していました。

私たちが今から進めていく話の中も、今後防災というものは欠かすことができないものだということも含めて、皆さんと一緒にいろんな意見を出していきたいと考えています。

まずは今日の1つ目ですが、皆様にもお願いをしていたところでもありますけども、これまでずっと地域学校協働活動事業ということで話をしてきたところでした。

そこで、今日は皆様方にもそれぞれ所属されている団体の中での1年を振り返りまして、少し地域学校協働活動についての総括を、話をしていただいたらどうかというふうに考えております。

というのも、なかなか良い話ばかりが聞こえてこないところもありますし、本当はまだその中で活動されている皆さんが、色々な思いをしておられるんじゃないかなということもありまして、順番にそれぞれの団体のこの1年を振り返っての総括、特に地域学校協働活動という視点でお話をいただいて、それについてまた皆さんと共に協議をしてみたいというふうに考えております。

では、お願いしてよろしいでしょうか？

(委員)

はい。それでは失礼します。

皆さんこんにち。

学校と地域との連携地域学校協働活動ですね、一緒にやって、子どものために活動しているということなんですけれども、私は自身のこの1年間を振り返ってということでありまして、コミュニティスクールになっているものを、さらに地域との連携を深めていこうという取り組みで、1学期ですかね前回お話を少しさせていただいたんですけれども、小野路（おやじ）の会っていうのを発足させていただきました。

これは、学校の方からではなくて、育友会長さんの思いから発足して6月に作ったんですけれども、それからいくつかエアコンの清掃だとか、会場設営に手伝ってもらったりとか、あとは夏に部活動の野球部の練習場所の整備をしたりとか、いくつか活動をしてまいりました。

そこが自分の学校としては少しプラスだった部分でございます。

やはり自分の学校だけではなく、校長会の代表として参っておりますので、今回、42 校に校長の方に投げかけて、もしよかったら、学校教育と社会教育との連携についても紹介事例がありましたら、ぜひ送ってくださいということで集めさせていただいて、今日資料を準備してまいりました。

全ての学校ではございませんけれども、13 校の校長先生方が主に、学校だよりで地域連携を挙げてくださいました。

こうやって振り返ってみますと、小学校・中学校それぞれで、やはり学校だけでは子どもたちは育てられてないんだなというのが実感いたしました。

学校行事が中心でございますけれども、そこに地域の方々のご協力がありまして、子供たちを教育ができているんだなと実感いたしました。

それぞれの小学校・中学校でご経験されていることとは思いますが、学校行事への協力、それから登下校の見守りとかですね。

または、逆に地域行事への子どもたちの参加があったりと、たくさんの地域学校協働活動が諫早市内の中でも広がっているということを実感したところです。

全てはご紹介できないところですが、ぜひ後ほどちょっと目を通していただければなと思っています。

私も先日の20歳の集いにも参加させていただいてですね、今年は本当に成人を迎えられた方々が、厳粛な雰囲気の中で素晴らしい20歳の皆さんだということ実感したんですね。今、中学校で中1から中3までが一緒に学んでいるんですけど、中学3年生にとってはもう5年後に20歳を迎えるんだなと、今年の20歳の集いに参加した方々のように、今の3年生もうじき卒業ですけれども、社会人になって本当に立派な自分の中心に考えるのではなく、社会のためとか、みんなのために尽くせるような、立派な20歳を迎えてほしいなっていうのを実感いたしました。

これも、やはり学校教育だけではなく、社会との繋がりが今年の20歳の成人というか、あの子たちを育てていったんだろうなというのは想像しながら今年参加させていただきました。本当に素晴らしい式でございました。

(議長)

ありがとうございます。

それでは続いてお願いしたいと思います。

(委員)

失礼します。

連合婦人会の方では、それぞれの地域でコロナが過ぎたらずいぶんまた行事が増えたなと思うぐらい、たくさんそれぞれの地域で頑張っております。

今度2月に大会を開催するので、それに向けて資料を各地域から集めていますので、その資料が出来上がったら一目瞭然なんです。

皆さんに1冊ずつ見ていただこうかなとは思っておりますけど、とりあえずうちの地区の報告ということでお話しします。

写真をまとめて持ってきましたので、ご覧いただければと思います。うちの地区は笑顔いっぱい地域密着型なんですね。

嬉しいことに1年目の先生もすごく打ち解けてくださりまして、地域の行事にはほとんど出てくださって、もう素晴らしい地域だと私は自負しております。その中で、婦人会は真っ先に入らせていただいて活動しております。

通学合宿では、子どもたちは最初茶髪の大学生が怖かったようですが、最後はお兄ちゃん、お姉ちゃんとすっかり馴染んでいました。

見た目と中身は違うと、先ほどおっしゃったように、成人の方が素晴らしかったって素晴らしい式だったとおっしゃっていましたが、まさにそれを地で行ってくれるんじゃないかなと確かに思っております。

地域の方も、ほとんど自治会長さんなどもこの地域の行事に入ってくだされば、学校の先生方もたくさん見ていただいているので、真津山は素晴らしい頂点にいるかなと思っているくらいです。

私達も、年々年取ったと言っていたんですけど、こういう通学合宿とかですら親子料理とかに入ってみると、まだまだ元気な方でした。ですから、まだまだ頑張れるかなという気持ちを強く持てましたので、もう少し頑張らせてください。以上です。

(議長)

はいありがとうございます。

しっかり聞きましたからね。引退できませんよ。

(生涯学習課参事補)

今、お配りした広報紙ですね、育友会が作られている広報誌ですが、生涯学習課の方に、全ての学校ではないんですけど送って来てくださいます。

その中の、西諫早小学校から送って来てくださったのが、地域学校協働活動のことが書かれているなと思い、配布させていただきました。

私の後からのお話の中でも説明させていただこうかと思いましたが、委員がお話しされる前に配布させていただきました。

(議長)

それでは、委員お願いいたします。

(委員)

西諫早小学校は、西諫早小学校は創立 50 周年ということで、実行委員が 20 人くらいいます。ほとんどが P T A 役員の O B、 O G が中心となって、11 月にやろうというように今思っているところで、地域もそれに合わせて色んな団体や自治会あたりも応援というわけではないですが、金銭的ものについて、各自治会にですねプレッシャーをかけながら、今お願いしているところでございます。

地域子ども教室代表の素晴らしい笑顔がありますけども、この方も 84 歳くらいになります。10 年前はピチピチされていたんですけども、今年はもう 80 超えたので、次をどうにかして探してくれというようなことを言われまして、もう 80 過ぎればそういう時期だなと思い、地域子ども教室も考えないといけない。

また、この前 1 月 12 日日曜日の成人式の日に、子ども会と P T A も参加して鬼火を開催したんですけども、やっぱり子ども会の参加が少なく、10 人いるかいけないかというようなことで、非常に子ども会会員が少なくなっているというようなところでございます。

このあたりをどうにかせんといかんのかなと思っていますけど、今のご時世どうなのかなと。できれば、本年度は子ども会という名前でなく、学校の中で地域毎、各町別に分けて、何かできないものかなと少し考えています。

何かそのような地域の活動を、子どもたちと一緒にできないかというところで、その辺りから取りかかっていかないと、子ども会も衰退していく一方かなと思っております。

6 月になりますと、今まで 5 年生の農業体験をやっていたんですけども、これも指導していただいている方がもう 90 歳になられまして、脳梗塞を患ったりされて、もうお願いできないということで、農業大学に相談にいったんですが、花とか植木とか畜産はやっているけど、農業大学では米を作るカリキュラムがないというようなところで、米は諦めて芋でも植えようかというようなことで、芋植えをしました。しかし、年末には今までは収穫したもち米で餅つきをしていましたので、12 月にはもち米を買って、例年どおり餅つきをしたというようなところでございます。

先ほど、委員さんが言われましたけども、10 月には通学合宿を開催しました。3 年ぶりにやりますと、やはり時代の流れといいますか、今まで協力してくれた人が亡くなったり、もらい湯の協力者の方が施設に入ったりと、この 3 年間のブランクっていうのは本当にあって、最初の 1 回目からすると 15 年が経ちますので、実行委員も皆さん高齢化になって、当時の 60 歳はもう 75 歳、70 歳の方が 85 歳というふうに、やはり日本列島高齢化というようなところでございますけれども、我々の地域でも次の若い方と言いますけれども、今のご時世として 65 歳までは働かないといけない時代になっておりまして、そうなりますと、なかなか次の世代が探すのが難しいというところが現状でございます。

あと、今までは夏休みにキャンプをずっとやってきたんですけども、この猛暑で暑い時期にはできないということで、キャンプができなければデイキャンプをやろうというようなことで、11 月に開催しました。

これには80名ぐらいの児童が参加してくれまして、鎮西学院大学のボランティアの方も20名ぐらい参加していただいて、スタンプラリーをしたり、いろんな遊びをして、カレーで夕食を食べて、6時頃から体育館でキャンドルサービスとして、約半日をデイキャンプで楽しく過ごしました。

大体1年間の流れの地域としては、そんなものですね。以上です。

(議長)

ありがとうございました。また一回りしてから質問とか、そういう形で答えていただくことがあるかもしれません。

次お願いします。

(委員)

失礼します。

皆さんの話を聞くと、いろいろと子どもたちのために幅広く深い活動されているなというふうに思いながら聞いていて、自分の活動を話して良いのかなんて思っているんですが、私達は子供の学習を支援するということをメインに今やっております。

今年は、大学生が4名ボランティアで来てくれているんですけど、その大学生の中の1人、実は久留米工業大学行っているんですけど、毎週帰ってきて毎週子どもの指導にあたってくれています。

その子は教員志望で、話す中で中学生を対象に数学だけでもやりたいということはどうだろうかということだったので、いろいろ打ち合わせをしまして、中学校にも校長先生とお話をさせてもらって、最初の夏休みの間だけということでしたんですけど、その後、延長もいいですよということで行っているところです。

さっき言ったように、彼が毎週帰ってきてくれて指導してくれている状態なんですけど、そこに私小学校籍なんですけども、中学生の勉強に、私と元校長なんですけど、小学校籍ながら自分も問題を解きつつ、中学生のわからんというところに一緒に取り組むというような形でさせていただいているというところで、中学生6名ほぼ毎週ですね同じメンバーで行っています。

中学生ですから、普段話をすると「はい、はい」というだけで、全然気持ちがこもってないし、感謝しているのかなと思うことともあるんですが、年始の初詣に、私、神職なものですから初詣にきましたよというような声をかけてくれたりとかですね、彼らはさっきの石丸委員さんがおっしゃったんですけど、見た目は茶髪で怖そうでも、内実は素直な子なんだなというような思いをですね、改めて勉強したというような感じでありました。

受験が終わった後、中学生に今度は小学生に向けて声をかけてねということで、今お願いをしていて、去年卒業した子が、私はもう本当感動したんですけど、自分はい勉強は全然好きじゃなかったからしなかったと。ところがこの教室に参加して、私達のところに勉強しに

くるようになって、やっぱり勉強はしないといけないというふうにした。小学生に向けて嫌かも知れないけど、少しでもいいからせんねというような言葉を残してくれたんですね。

私は涙が出るような感じで、本当嬉しかったんですけど、今年は、3年生の子が中学生の活動とか大学生の活動を見ていて、今度僕たちが大きくなったら教えにおいでねと、そういった言葉を聞いて、私達は微力ながら子供たちのサポートを、大したことはしてないけども、何か少しは子どもたちのためになっているんだろなというふうな思いを持ちました。

また、今年は教育相談に来られた家庭がありました。1件だけですが、学校での自分のお子さんの不調と、子ども教室に来ているときの様子、もうぶっちゃけたところでお話ができますので、お話をして、結論は何も方向性とは見えないんだけど、1つ子供さんに学校のことを嫌だなとか、悪いなということを夫婦で話すと、子供さんは間違いなくも勉強嫌いになっていくので、絶対に学校のことを子供の前で話さないことということ、その子は九九で止まってしまって困ってましたので、多分九九の問題があるということが1つ、それと親さんが子供さんとすれ違いの生活なんですね。お父さんが帰ってくる頃には寝ている。そして、お母さんも子供が起きる前に出勤で出て行って、お父さんもバタバタとして出ていくような形で、その子は次男坊ですので、お兄ちゃんは可愛がられ、その下に三男の小さい子もいて、面倒を見なければいけないこともありますので、自分が関わってもらっていない状況が見えますので、そういったことをお話しまして、愛情を持って育ててくださいと愛着的なところもありますのでというようなことをお話して、ご夫婦でも理解し納得してもらって今対応してくださっています。

それと、不登校のお子さんを持つ親御さんとたまたま来られましたので、お声掛けをしたところ、実はお子さんが不登校でとおっしゃったので、実は私はこういう活動をやってますのでもしよかったらお声掛けくださいというふうにお話をしたところ、自分の仕事場が長崎市なので、長崎市のフリースクールに通わせることにしましたとおっしゃってくださいました。そのような呼びかけをして、そういうお返事をしてくださったのは多分響いているのだろーと思い、今後も何かあったらいつでもご連絡してくださいとお声掛けしたところです。

本当に活動内容としては、大したことはやっていないんですけども、地域と関わりながら子供たちのためになることを本当に小さな一歩を重ねているという状況です。

(議長)

ありがとうございました。

貴重なお話を聞かせていただいたと思います。

次お願いいたします。

(松山委員)

市 P 連というか、私が所属している喜々津東小学校でも今年通学合宿の開催がありまして、コロナ禍でちょっと開催していなかった期間が開いているということから、保護者の意識もちょっと変わってですね、参加者が少なかったんですね。

結局、8名子どもが集まって、全員6年生だったんですけど、大学生のお兄ちゃんお姉ちゃんともすごく楽しくできたんですけど、例えば次年度に繋げるために、今年の参加者が卒業してしまうので、ちょっとこれからいろいろ考えないといけないと感じています。

下のお子さんがいらっしゃるご家庭は、今後もってなると思うんですけど、なかなか通学合宿に興味を持つ家庭が限られているというか、「自分たちには関係ない」という感じで、プリントをもらっても、処分してしまう人が多いみたいで、PTAの中でも情報不足という話があって、その活動の様子とか、参加した子の感想とかをまとめて、学校の広報誌に載せたらどうかという案が出まして、今日持ってきてないんですけど、この前発行した広報誌に小さなコーナーを設けるなどしてみました。

もう少し早く、通学合宿前にその記事を出すことができていたら、もう少し参加者が増えたのかなとも感じました。

ですので、来年度は、年度明けにもまた同じような特集を組んでもらって、通学合宿みんなに知ってもらうところから始めてみようかと話しています。

実際参加すると、すごく居心地がよくて、地域に支えられて子育てできていると実感できるので、知らない人には勿体ないなっていう気持ちがあってですね、たくさんの人に参加してもらって、いろんな年代の人と人にまみれて成長してほしいなと思っていて、たくさんの人に知ってもらうように情報をたくさん伝えていきたいと思います。

あと諫早市連合会活動としては、今日のようにいろんな会合に保護者の立場として参加させていただいているんですけど、そこで仕入れたお話とかを学校に持って帰って、どういうふうに保護者の方に伝えていくか、それもひとつ課題かなと思っています。

(議長)

ありがとうございました。

今それぞれ、簡単に報告をしていただきましたが、話題が諫早市の社会教育について皆さんで話をしていくときに、それぞれの団体のこととか、諫早市内の様子を知っておくということはとても大事な事かなと思います。

そうしないと偏った知識になってしまうというか、ですから、よろしければ、それぞれの今報告があった中で、ここはどうなっているとねとかいう感じで、少し話をいただければと思うんですがいかがでしょうか。

私からは、例えば委員にですね、今PTAに入る人が少なくなっているとか、PTA不要論とかありますけど、市Pではどうされているんですかみたいなことを、私が投げかけて

ちょっと答えていただくとかですね。ちょっとフリーで行きたいと思いますが、事務局からもあれば自由をお願いしたいと思います。

今の質問に関してはどうですか。

(委員)

その件に関しては、諫早はちょっとのんびりしていて、実際に問題として挙がってはきていないですよ。ただやっぱり、長崎市とかの会長さんとかに聞くと、毎年何校もそういった話が来ていた、今年は何校とかよく聞くので、諫早市も近い将来そうになっていくというか、1校が言い出すと伝染して、PTAをなくせるならうちもそうしようと、増えてくると思います。

なくすのは簡単なんですけど、困ることがたくさんあると思うんですよね。先生方も、保護者の手を借りたいというときにPTAがあると相談しやすいというのがあってと思いますし、例えば、何か意見を言いたいというときも、市P連とかがあったら、市教委の先生方にそういう橋渡しの役割っていうのがなくなってしまうと思います。

PTAと関係なくなると、皆さんの負担が減るというだけで、考えてらっしゃると思うんですけど、なくなったら困ることがたくさんあるよっていうのをですね、押しつけにならないように説明していくということが、これから必要となっていくのかなというふうに思っています。

(議長)

はい、ありがとうございます。

なくなったら困るよっていうことですよ。

(教育長)

その件に関しては、私自身もそう思っておりまして、やっぱりPTA活動ってというのはもちろん学校にとっても校長にとってもですね、PTAのありがたさといいますか、そういうのを感じられていると思いますし、なくてはならないものだと思いますけれども、やっぱり教育委員会としまして、みんなで地域を含めてですね、子どもたちを育てていっていただきたいと。学校、PTA、保護者、地域が一体となって育てるという、そういう環境であってほしいなと思っているので、もうPTAがもうなくなったら、私はどうしようかと思うぐらいに本当に大事に思っておりまして、PTAの役員さんから飲み会の誘いがあれば、絶対に行くようにしておりまして、皆さん方のおかげで学校は助かっておりますっていう話をしております。

そういう感じを持っておりますけどもやっぱりですね、この後、多分行き着くところは、ボランティアだけでいいのかっていう問題で、今後出てくるんだろうなと思ってですね。

諫早は、今までずっと学校支援会議を熱心にやってきております。それからPTA活動も非常に熱心で、7年連続で文科省の表彰をもらっている地域なんかは全国にないですから、そういった面ではですね、非常に熱心にやっていただいております。

しかし、そういうのに少し私達も甘えてきたかなっていう思いがしていて、今後コミュニティスクール辺りが中心になっていくのかなと思いますけど、そういったところでの、また社会教育活動においても、財政支援といいますか、そういったものも必要になっていくんじゃないのかなと思って、いろいろと今、手を打つといいますか、予算取りなどを行っているところでございます。

(議長)

ありがとうございます。

今の教育長さんのお話からいくと、「出るぞ」と、そのような雰囲気をちょっと感じたと思うんですが、先ほど委員がおっしゃったように、PTAのOG、OBさんたちが50周年の実行委員になっているとかですね。

両委員はPTAの役員を経験されていますよね。

お2人ともやってらっしゃったと聞きましたし、また地域で色んなことをやってらっしゃるのは、皆さんPTAの役員な多いはずでもんね。

そういえば、喜々津東小も今年いただいたんですかね文科省表彰は。文科省ではなくて日P表彰だったですね。それでもなかなか取れないかなと。

というような形で、少しPTAのことが出たんですが、皆様からいかがですか。

委員いかがですか。

(委員)

いやすいません。なんかちょっと持論みたいなことをお話することになるんですが、いわゆる世界というか、情勢を見ていると個人主義の方に振れが大きいんです。

個をベースにして物事を考えるので、例えば、トランプ大統領が代表的なもので、自国中心でということと言っているけども、自由とか権利とか言い出すと必ず対立がありますよね。全体全体で言い出すと、今度は個人の自由はどうなんだっていうふうになりますね。

その中間という部分をとるっていうところはとっても大事なんだけど、日本の教育ってそういった部分にあったんですよといえますか、あるんです。

昨年末、「小学校小さな社会」というドキュメンタリー番組が年末に放送される番組で、配信が一般の映画とかじゃなくて、最近あるようなネット配信もので、そういったのは公開してるんだそうです。私は見てないんですけど、世田谷のある小学校の1年間、1年生と6年生の学習風景生活を撮影して、変な説明とかをしているのではないんです。

そこで、それを見た主に北欧、ヨーロッパですけど、スウェーデンなんかの学者がそれを見て、日本の教育の素晴らしさを見て、世田谷の学校に視察に行ったりしたいと思ったそうです。

そういったことで、簡単に言えば日本の教育って素晴らしいから、自信を持ちましょうということになるんだけど、その作者の方がおっしゃったのが、自分がアメリカで勤めてる時に、あなたは本当に仕事熱心ねとか、また時間をきちんと守るねとか、あなたは約束も守るし、1人1人に対する気遣いが素晴らしいよねっていう評価を受けて褒められて、自分は普通でやっているんだけど、大谷選手がグラウンドに入るときに、ゴミを拾うとかラインを踏まないといったことも、きっと多分当たり前に行っていると思うんです。

日本の教育の中で、そういったことが世界に称賛されるようなことが、当たり前に行っている。それはどっから来たんだろうというところで思ったのが、小学校だと。

日本は小学校1年生からそういったことを学んできていると、そのドキュメンタリーを作ろうと思ったそうなんですけど、その方がおっしゃった言葉の中で一番気になる気になったのが、ヨーロッパでは欧米では、例えば、意見をどうぞと言われたときに、隣の人と違う意見を言いなさいという教で、要するに個性は先に出せということから学習に入ると。

ところが、日本の教育は周りの今の状況であなたはどうか考えればいってという意見を求める。そこでの学習への入り方、教育への入り方が、180度逆だと。そこに日本の教育の素晴らしさがあるのではないかと。

今言われている、分断というのが大きいのは、個人主義に振れすぎた部分のところが、行き過ぎているからそうなるんじゃないかというようなことをおっしゃっているんですね。

私もずっと、個人主義の方向というのは本当気になっていましたので、本当はこれだと思ってですね。できれば学校に行っている子どもたちも全部見せたいし、知らせたいなという思いがありますし、これ機会があったら言おうかなって思っていたんですけども、日本の教育も素晴らしいんだけど、その中に一番言いたいのは、家庭に対してもうちょっとしっかりしろよということを私は強く言いたいなというふうに思います。信念をもってうちは子育てしているんだと、どこに出しても恥ずかしくない子どもにするんだっていうのは、プライドを持ってやれるような、家庭に啓発していければなというような思いがあります。

P T Aのこともそうですね。もう自分のことに振れているものだから、人のことはどうでもいいと。こっちばかりを言い、でもこっちを考えたときに、連携、連帯が飛んだらどうすればいいか。やっぱり所属しないとだめだろうっていうところが理解できてないという、なんかそういったところ、いろんな物事に関して個人主義に振れすぎているのを警戒します。なんと云いますか、全体があってこそ、社会があってこそ私があるんだから、そういったのを考えてやっぱり行動すべきじゃないかな、教育すべきじゃないかなというふうな気がしています。

(議長)

ありがとうございます。

諫早市社会教育全体に対して、子どもがいろいろ提言したり、ご意見を教育委員会に伝えるときに、そのベースになるときどう私達が考えていけばいいのかっていうことと、今現状に対する危惧と言いますか、委員からお話をいただいたところです。

皆様からいかがですか。

(委員)

P T A の話題なんですけれども、自分の学校振り返ってみたときに、P T A に加入しないとか、そういうご意見はこの二年間全く出てきていんですよね。理事会など年に数回会合がございますが、その場でいろんな議論といいますか、地域のこととか、もちろんその町のあり方、それぞれ子どもたちが減ってきて、ある町はものすごくも少ないので、町長として町理事としての役割などかなり負担が増してきているとかですね。

存続とかいう話題があるんですけれども、この全体を見たときに育友会長さんがおられて、本部の役員さんが数名おられてやっぱりその方々が、代表の育友会のメンバーをある程度まとめながら進めていってくださっているなというのも、今の橋本委員のご意見を聞きながら、そういう部分では、育友会が今学校からなくなってしまったら、それこそ個人主義の方に走って行って、学校への要望だとかですね、個人個人で上がってきてしまうんじゃないかなという危機感を覚えました。

ですから、やはり家庭もお仕事が共働きであったり、または母子家庭や父子家庭とか片親の家庭とか、なかなか時間が取れないっていうところも増えてはきているんです。

けれども、全体が協力し合いながらカバーし合いながら、どうしても参加できないところは別の方が助けてやるとかですね。そういったものが理想かなと考えました。

ぜひ、全くなくすのではなくてですね、より良い方法を模索しながら続けていきたいなと自分自身は思ったところです。

(議長)

ありがとうございます。

P T A 関係は、先ほど委員がおっしゃったように、P T A の中にもこれからなくなったら困るんだよということを伝えようという、そういう動きや、あるいは先生方のお考えや教育委員会もなくなったら駄目なんだよっていう、そういうことで何とか、これから良い話はなかなか聞こえてこないんですが、悪い話しかニュースにならないからですね。

でもいろんなところで、きちんとやろうとしている姿を、私達はもっと伝えていかねばいかんのかなと思ったところでもありました。

少し話題を変えまして、別の話題のところで、先ほど委員がおっしゃっていた、子ども会関係ですが、教育委員会に何か情報とか持ちですか。特にはないですかね。

今日は欠席をされておりますけども、諫早市の子ども会も小学生の加入率がどんどん下がってきていると聞いております。

10年ほど前は50%前後だったのが現在はもう50%を切っていると思います。

長崎県内で一番少ないのが大村市で、児童の1割ぐらい、1割ですから学級に40人いたら、そのうちの4人しか子ども会に入っている人がいないというのが大村市の状況です。隣の市のことはいいんですけども、諫早市も現状としてもなかなか厳しい。

ですから、先ほど委員がおっしゃったように、子ども会で何かするぞっていう感じではなくなってきているという状況です。

ただ、諫早市内でも有喜だとか小野だとか、きっちり組織がしっかりしてらっしゃって、伝統的にやってらっしゃるところもあれば、なかなか最近子ども会もなくなってきて、特に中央部、諫小校区なんかもなくなっているところがあります。

ただ、連合会には入らないけれども、単位子ども会で残っているという町もありはするんですね。

ですから、何とかしたいという大人の方は残ってはいるんですけども、全県的にもなかなか厳しい状況ではあるようです。

私は、他の市で子ども会の研修なんかを担当している部分があるんですけども、長与町とか、雲仙市の愛野町とか、子どもたちが計画をして夏祭りを開催したりだとか、そういうふうにして子どもたちが自分たちでというところもありはしますが、なかなか先ほど橋本委員がおっしゃったように、保護者の方の考え方でも加盟をしないというのが、諫早市にも少しずつ増えてきているというのも聞きいているところですね。

また少し視点を変えまして、皆さんからご質問とかよろしいですか。

委員いかがですか。

(委員)

うちの地域ではですね、今までのPTA、育友会の役員さんは、現役、子どもたちが卒業しますと、会長を務めた方には健全育成会のメンバーとして入っていただいています。

多分、諫早市内の健全育成会の中では西諫早小校区が一番メンバーが若いのかなと思います。40代の方がゴロゴロいます。

そうすることによって、この人たちが20年後には地域の中心になるというようなことで、今からですね、鍛えるということはないですけど、いろんな活動をしていただいて、65歳、70歳になれば、この人たちを中心に地域がまとまるようにというようなことで、誰も「いや私は入りません」ということは言わないですね。

なぜかという、いろんな地域の活動の後には、反省会という名の飲み会をやるんですね。

ですから、PTAの役員さんも一緒にそう飲み会をやって、お互いわかっているんですね。

もう、副会長時代から会長になるまで、3、4年ありますので、その3、4年間はいつでも飲んでいきますので、私達は今度卒業ですから次はぜひ健全育成会でと、そういった感じの良い流れができています。

よその地域はわかりませんが、私達の地域ではそういった流れで、50周年のメンバーもOB・OGがなっているのかなというように、教育長おられますけど、10年後、20年後の地域の核になるようなメンバーさんになっていただきたいというところで、健全育成会のメンバーに入れています。

私が一番年上です。50代、40代は本当によく動いてくれますですね。

一応、提言としてそういったところです。

(議長)

P T Aの人たちが最終的にまちづくりの次の担い手になって、今現在、次の世代として活動しているんだということですね。

逆を言うと、だからP T Aがなくなると、まちづくりの次の世代がいなくなるぞと、そこも心配でもある。そういったお話しですね。ありがとうございました。

(委員)

いいですね。ちょっと教えていただきたいです。

うちの地域でもそうなんですけど、飯盛は田舎なんですけど、飯盛ではこういうものであるという意識があるんですよ。

例えば子ども会に入るのは当たり前、そういうものだというような、暗黙のところがあつたのが、もう既に崩れてきていますから、西川さんがおっしゃった、多分、西諫早も崩れかけるっていう言い方はおかしいかもしれませんが、そういう中で地盤を作るっていうことをされたと思うんですよ。

西諫早は、P T Aの役員を終えたら健全育成会のメンバーですと、そういうものなんですよというのを考慮されたのかなと。

このままではやばいぞということで、地盤作りをされたところや、こういう会を開催したとか、何かを教えていただければありがたいです。

(委員)

我々が役になった10年前は、もうお年寄りばかりだったですよ。

本当に役員さんが70歳、80歳で、そういう人たちがばかりでやっても、いいものを言うのもなかなか難しい状況でした。

P T Aの役員さんを引き入れるということは、やっぱりアルコールの力ですよ。

飲み会をやりだしてから、皆さん、今度卒業するPTAの役員さんも、次の総会から入っていいですかねとか、そういったことを言っていますもんね。うまいこと回ってきているなという実感があります。

その人たちはPTA、育友会を自分たちは背負っているんだってというような意識があるものですから、PTAだけで終わらせたらもったいないですもんね。次はその意識を地域に向けていただき、使っていただきたいなと思っています。

(委員)

本当よくわかります。飲み会大事だなと思っています。

自治会長さんと話したときですね、実は、今アパートへたくさん入って来ているんですよね。アパートの方々に自治会に入ってくださいって言うと、「自治会には入りません。子ども会には入ります」と言うんだそうです。子どもが犠牲になりたくないという意識なんでしょうが、自治会長さんがそれはちょっと違うのではないか。自治会の中に子ども会があるので、そういったことを考えると、子ども会だけに入るということは許されないという説明したところ、その方は自治会にも入ったそうです。

ところが、あるところは、自治会に入ってもメリットがない、子ども会は入りますといわれて、子どもを基準にするんですかとか言われましたが、結局はそれを了承したそうです。

結局、そういったことが諸々あるので、自治会長さんの手腕によって成功する場面と、もうダラダラと本人に言うことを聞いてしまうところもあるし、何か非常に、郷に入れば郷に従えというようなことが、今、日本の言葉で死語になっているんじゃないかなって感じがするんですね。

そういったことも復活させるために、どこから取りかかった方がいいのかとかいうのは結構大きな問題だと、僕は思っているんですね。委員はすごく苦勞されたんだろうなと思います。

(委員)

PTAの役員を経験された方は、意識が高いですね。いろんな経験をされているからですね。

(議長)

それでは、まとめるわけではないんですけども、委員がおっしゃったように飲みニケーションの利用だとか、要するにとにかく対話の機会が増えればということでしょうかね。

先ほど委員がおっしゃったように、その自治会長さんとその会員の方も、いかに話を突っ込んだところまでできるか。

地域学校協働活動推進をしていくには、PTAの活性化と、とにかくコミュニケーションを深めましょうよと、そのひとつとしてのコミュニケーションっていいですかね、逆に言うところ、ちょっとギクシャクしたところは話が足りないのかも知れないということですね。

その原因は、さっき橋本委員がおっしゃったようなこともあるし、なかなか一刀両断で切れるところが難しいところではあると思うのですが、第1部の部分はこの辺で終わりたいと思いますが、皆さんよろしいですか。

— 休 憩 —

(委員)

それでは、第2部に入りたいと思います。

11月に九州ブロック社会教育研究大会、そして長崎県社会教育研究大会がありましたので、参加した委員の皆さんから短くて結構ですので、ちょっと感想をお聞きして、次年度のいろんなことに使いたいというふうに思っておりますので、よろしかったらまず九州ブロックに参加されたのが委員、よろしかったらこういう感じだったよということをいただければと思います。

(委員)

それでは、私から報告いたします。

11月7、8日の日程で行かせていただいて、我々が参加した分科会は第3分科会で、地域におけるその社会教育の取り組みとか、色々な体制の取り組みを勉強したいということで、第3分科会がいいだろうと言うことで参加させてもらいました。

そこで、グループワークで小グループに分かれて話があったんですが、その中に熊本の芦北町の社会教育委員がおられまして、今年初めて通学合宿を開催したというお話がありました。当初20名の募集に80名の応募があったと。選考をどうするかということで、応募者の半数の40人で実施したということでした。

しかし、もらい湯の受け入れや、スーパーへの買い出しも、40人が一度に行けるわけがありませんから、3泊4日で開催したと言われていましたが、もらい湯も3日全部提供した家庭があったり、スーパーの買い出しも大人がしたりと、非常に苦労したという発表があり、どういう対応をしたらよかったのか意見を求められました。

自分のところも、15年前の第1回目を実施したときに、20人の定員に対して40人という、倍ぐらいの応募がありましたので、そのときは、とにかく6年生はもう来年がないから、6年生は全員出席させよう。4、5年生は4人ずつの受け入れならできるのではないかとということで、抽選をしましたが、抽選もオープンにしたことをお話ししました。

通学合宿を実施する地区は、第1回目は色んな苦労をされるので、色んなことを想定して開催しなければいけないですねと言われたことが頭に残っています。

(議長)

ありがとうございました。

今は、ワークショップ形式で行うことが多いですもんね。話を聞くだけの会というのはもうないですもんね。

来年度も予算の確保がしてあるでしょうから、次は福岡での開催のようなので、次年度もまたどなたかに参加していただきたいと思います。

次に長崎県社会教育研究大会ですが、今年は皆さんに参加していただく機会がありましたので、よろしければ気になった、あるいは参考になったことがあれば、一言ずつでも聞かせてもらえたらと思います。

(委員)

講演で島根県益田市での実践を、大畑さんがされたんですけど、一番強烈に残っているのは、社会教育の中に学校教育があるっていう考えですね。

社会教育という大きい範疇の中に、学校教育があり、家庭教育があり、地域協議会があるという構図で物事を捉えましょうみたいなことをおっしゃったんですね。まさしくコミュニティスクールの背景がそうですよね。

ところが、実態がコミュニティスクールというくくりの仕組みの中に、何かを入れ込もうとして動いているような印象があるんですね。

やはり、もっと大きく子どもを育てるっていうのは、家庭でもあり、一般人でもあり、学校という専門でもあるというようなところの認識を、もっとしっかり持たないことには、コミュニティスクールの先はまたお祭り騒ぎで終わってしまうと、今までである方がおっしゃいましたね。コミュニティスクールと学校をなぜ一緒にするのかと。だから、うちはコミュニティスクールにしないでいいんだということをおっしゃっていましたが、完全に間違いないんですよね。

そういう捉え方をしていかないと、家庭も責任を持たないし、一定責任を地域も持たないといけないし、学校はもちろん責任持たないといけないし、そういったところの本当に望ましい姿はできるなというふうに思います。

この方がおっしゃられているのが、社会の中で、私の立場で責任持ってこういうことやりますよという、学校と話をしてやりますよという実践があって素晴らしいなと感じました。

やってらっしゃる中身は、皆さんがやってらっしゃる中身とさほど変わらないです。だけど、意味合いが大きく変わる。社会教育の中に、自分のたちのやっていることがあるから、最終的には8人しかいないで、廃校になった学校に8億円使ったと。その学校に、公民館を作り、消防署を作りというようなことで、教育も動いたということだったんですね。発想が元々違うんだなということを思いました。

ただ、その発想理念をしっかり浸透させるところが、やはり手腕なんじゃないかなというふうに思い、そこを確信し、やっぱりそうだなと思いました。

(議長)

はい、ありがとうございます。

委員いかがですか。

(委員)

分科会では、4, 5人のグループに分かれてグループ討議だったんですけど、これも今日のような自分が所属する団体でこういう活動している、社会教育についてこういう意見があるという意見交換で、その地域とか学校と保護者の繋がりを強化していくことが大事だという話で共通していました。

(議長)

ありがとうございました。

参事補も参加されていましたが、いかがですか。

(生涯学習課参事補)

私も委員がおっしゃったように、講師の方がお話されたことってというのは、諫早で皆さんがされていることだなと思いました。

だから、諫早で皆さんがされている、今通常されていることは、すごく尊いことなんだと。どこにでも通用するものなんだというふうな形で、私自身は自信を持って活動していただきたいな、それをお知らせする必要があるなっていうのを感じた次第でした。

(議長)

ありがとうございます。

これまで少し長い時間で開催されていた県の大会も、だんだんコンパクトになってきています。

おそらく来年度も、そんな感じで開催されるだろうというふうに思いますし、社会教育委員さんたちの集まりの中でも、本当に様々な考え方があって、ちょっとこれはどうなんだろうかっていう方がいらっしゃるのも事実なんですけども、どの方も自分の町や市の社会教育をなんとかしたいっていう思いを皆さんお持ちだなっていうのは、私は感じたところでした。その連絡協議会もまた今度開催をされますので、改めてまた報告をしたいと思います。

その中で、私委員の3名、表彰もいただきましたので、本当ありがたいことだなと思います。

以上、本日の中身、一部と二部で開催をさせていただいたところですが、皆様の方から特になければ、ちょっと委員に総括をしていただこうかなと今日は思っているところです。

(橋本委員)

では総括になりませんが、皆さんの話を聞かせていただいて、自分また頑張らないかなんという思いをされてしまっていました。

そして、どっちかという、自分の活動ということで終結しているいので、何か普段の時でもこういう会議だけじゃなく、ちゃんと何かお話ができればなと思っています。この会議の中で連携といいますか、繋がりが深くなるのが、もしかしたらその他の方々にも各委員を通じ、介して、繋がっていくという嬉しい連携ができていき、理念の共有もできていくのかなんていうことをずっと考えていた次第です。

そのために、飲み会を何回か開催していただいて、生涯学習課にぜひ設定していただいて、設定していただいて、そこに1人でも2人でも加わって、意見の共有化ができていけば面白いだろうなという、肝臓の続く限り頑張りたいと思います。こういうまとめでよろしいでしょうか。

(委員)

北小校区に、気合の入った40代の親父が一人おりまして、北小校区の健全育成会が、あまり活動実績がないもので、西小ではどんなことをしているのかと、我々の鬼火やデイキャンプや通学合宿を見に来て、ぜひ自分のところでもやりたいと。

しかし、地区が違うので、自分のところにその意見を持ち込んでみてはどうかという話をした人物がいますので紹介だけしておきます。

(議長)

それぞれの地元に、そこに育った人、あるいは後から入ってきた人も、そういうのは関係なしにですね、今そこに住んでいればその住民だから、そこにどれだけ住んでいる時間が短い、長いとか、外に出たとか関係なしに、今そこに住んでいるとか、子どもが住んでいるとか、あなたはそこに家を作ったんでしょとかですね。あなた、そこに住んでいるじゃないということで、そこに住んでいる人間としてやっていけば、少し自分たちの住んでいるところは変わっていくのかなと、そういう感想を持ちました。

委員には、先ほど突然総括をお願いしたところだったんですが、今日の会議をどうしようかと事務局と話をしているときに、暗い話にならんようにという話をしていたところだったんですが、委員の方からも、いいところを出そうとしているよというお話とか、飲みニケーションの話とか、学校も教育委員会もPTAのことを真剣どうにかしようと思ってらっしゃるんだなと思いました。

僕は一番今日印象的だったのは、あなた諫早市の社会教育をどう考えているかと今問われた時に、ちょっと答えきれないなというのがあって、そういうことになる部分っていうのは、何か作っておかんといかんかと反省をしたところでした。

今日の中身につきましては皆さんの方から色んな意見をいただいて、いい話になったんではないかと思います。活発なご意見と提案いただきありがとうございました。

この後は事務局にお返しいたします。

— 事務局より次回（第4回会議）の日程の提案を行い、3月14日（金）で内定 —

（生涯学習課長補佐）

会議の進行を務めていただきました議長、ありがとうございました。

以上を持ちまして、令和6年度第3回社会教育委員会議を終了いたします。

— 終 了 —